

Ⅱ. 事 業 の 報 告

法 人

(学園創立120周年記念事業)

共愛学園創立120周年記念事業として、以下が2004年9月の本理事会において承認された。

- ① 幼稚園の駒形キャンパスへの移転
- ② 幼稚園、中学・高校、大学の共有施設の建設
- ③ 100年史（下巻）の発刊
- ④ 創立120周年記念事業募金の実施

1) 幼稚園の駒形キャンパスへの移転の件

幼稚園移転は10年来の懸案事項であったが、周辺幼稚園や行政に対する粘り強い交渉の結果、ルールの見直しにより移転が基本的に認められ、昨年の11月県へ事前協議書を提出、本年1月12日に正式に移転が承認された。

直ちに2005年度当初着工に向け設計士を選定、幼稚園職員や本部職員との頻繁な打ち合わせを経て、年度内に設計図面を完成させると共に、用地（農地）も地権者の協力を得て3,344㎡（1,013坪）を取得することができた。

2) 幼稚園・中学・高校・大学の共有施設の建設の件

共有施設の建設については、将来的な構想をもち関係部署において、全学的な視野にたち様々な施設（温水プール、トレーニングルーム、合宿所など）を検討中である。

3) 100年史（下巻）の発刊の件

共愛学園百年史編纂委員会において、年代別の執筆者も決まり、2008年の創立120年の発刊を目途に鋭意編纂作業中である。

4) 創立120周年記念事業資金計画の件

総事業費4億3,760万円のうち、外郭団体からの支援繰入れ予定額2億0210万円は確実の見込みであるが、岩神キャンパスの売却が引き続く土地の下落傾向もあって、1億5,000万円の売却予定が約3,000万円減の1億2,000万円程度になるものと見込まれている。補助金も流動的ではあるが計画の3,000万円は交付される見通しにある。一般募金は、外郭6団体と学園関係者をもって組織される「120周年記念事業推進委員会」が昨年の10月に立ち上げられ、目標の5,000万円達成を目指して、それぞれの団体が募金活動を展開している。

(ガリラヤ荘の解体)

赤城山大沼湖畔に立地する学園所有のガリラヤ荘は、某企業から1983年に取得したものである。中古の建物であったことから最近では老朽化も著しく、利用者が減少していることから昨年9月に解体した。借用地については県の観光開発公社へ返還した。

大 学

(入学の状況)

受験生に授業内容が明確なコース制の導入が理解されたこと、特待生制度や奨学金の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開により、定員15%増の学生を確保することができた。

2004年度 コース別入学概況 (入学定員200名、編入学定員20名)

	英 語	人間文化	情報経営	国 際	計
応募者	131(5)	81(2)	185(10)	66(2)	463(19)
合格者	96(2)	64(2)	82(5)	34(2)	276(11)
入学者	81(2)	56(2)	72(5)	25(2)	234(11)

() 内数値は編入学

(小学校教員養成課程の設置)

アンケート調査を実施して高校生のニーズを探り、また、コンサルタントを入れて着実な調査を行った結果、最終的に小学校教員養成課程の設置を文部科学省に申請し、本年3月「地域児童専攻課程」の認可を得ることができた。

上記の設置に関する問題として、文部科学省への申請と教員の確保の問題があった。申請前の文部科学省のヒアリングでは厳しかったが、学部内に地域児童専攻を設ける趣旨・目的を粘り強く説明し認可を得ることができた。教員については、公募による6名の採用計画に対し71名(国語8、算数11、音楽16、図工17、体育6、家庭もしくは生活13)の応募があった。第一次の書類選考によって分野ごとに複数人を選出し、2日間にわたり第二次選考の面接を行い理事会の議を経て最終的に6名を決定した。

(自己点検・評価)

法改正によって国が認定した認証評価機関による大学評価が必要となり、このための自己点検・評価書の作成が義務付けられた。企画センターが中心になり、それぞれの部署から上げられた原稿を基に1年かかりで作成した。今後、7年ごとに認証機関による評価を受けなければならないが、本学は大学基準協会へ加盟判定審査と合せて申請した。

なお、これを実効あるものとするためには、継続して課題事項についての点検と評価が必要であり、今後、学内において組織的に取組まなければならない。

(施設・設備等の充実)

岩神キャンパスの幼稚園用地一部 962.12 m² (280.15 坪) と前橋市からの大学借用地 16,287 m² (4926.81 坪) のうち 1,412 m² (427.13 坪) を等価交換した。これは幼稚園用地の売却先探しが難しかったことから、前橋市当局と交渉して等価交換の形をとったものである。

設備面では、1号館チャペル内の老朽化したエアコンとオルガンを新たに入れ替えた。更に情報機器のサーバが5年を経過したので交換を行ったほか、教育効果を図るためにプロジェクター6台を各部所に設置した。また、環境教育の視点から分煙ルームを3号館外へ1ヶ所設置し、分煙機を8台購入して各喫煙室へ配置した。

(教員の諸手当改定)

負担の公平を図るため教員に対する超コマ手当とコース長手当を新たに設けた。

超コマ手当は年度当初より支給したが、コース長手当は年度末に決まったことから4月に遡及して支給した。

(進路の状況)

- ・ 卒業生の進路状況は次のとおりである。

就職者	98 名
就職未定者	17 名
その他	35 名
進学者	7 名
計	157 名

就職率 85.22% (98/115)

・就職者の業種別進路と主な企業は次のとおり。

業種	人数	主な企業
サービス業	27名	近畿日本ツーリスト(1)、東武トラベル(1)、群馬ロイヤルホテル(1)
印刷業	4名	上越印刷(2)、上武印刷(1)
官公庁	2名	笠懸町役場(1)、群馬社会保険事務所(1)
教員	2名	北橋中(1)、渡良瀬養護学校(1)
金融業	8名	群馬銀行(4)、群馬信用組合(1)、丸三証券(1)
建設業	6名	群馬ホーム(1)、群馬セキスイハイム(1)、一条工務店(1)
自営	1名	ネイルサロン
商社	2名	岩瀬産業(1)、ザ・型屋ドットコム(1)
情報	8名	高崎共同計算センター(1)、ソフトバンク(2)、富士情報通信(1)
メーカー	5名	鶴田食品工業(1)、オリエンタル(1)、ジャパンメタル(1)
流通業	33名	群馬日産(3)、群馬トヨタ(1)、ベイシヤ(2)、セキチュー(1)
計	98名	

高校

(入学の状況)

英語科に特進コースを新設し、ポスター作成・中学校訪問・新聞広告等の広報活動を積極的に行ったことにより、2003年度よりも全体の応募者が約40%増、入学者が約7%増となった。

入学概況（カッコ内は共愛中学出身者の内訳）

	英語科		普通科	計
	特進コース	進学コース		
定員	90名		332名	422名
応募者	223 (5)	217 (17)	663 (47)	1,103 (69)
合格者	144 (5)	165 (17)	576 (47)	885 (69)
入学者	35 (5)	81 (17)	263 (47)	379 (69)

(普通科は文科・総合・理数コース)

(パートナーシップ校の開拓)

カナダ・バンクーバーにパートナーシップ校を開拓。バンクーバー市の教育委員会とはこれまで様々な交流を考えてきている。現在は、バンクーバー市教育委員会が共愛学園のために企画したプログラムで、語学研修を持っている。そして更にパートナーシップ校をこの教育委員会を通じて開拓できた。このパートナーシップを持つことによって、この学校に留学した生徒は、単位の取得を可能にしている。

アメリカでは、カンザス州のオレサ市との交流が続く中で、オレサ市の中にパートナーシップ校を4校設けることができた。これもオレサ市の教育委員会のバックアップの下に推進していったものである。

(高校と大学との連携)

中高大連携促進委員会では考えられてきたが、この度、高校の英語科に特進コースを作るに当たり、高大連携も視野に入れてカリキュラムが作られた。その中で、心理学、哲学という教科を取り入れることにした。この授業は大学の授業を提供することを前提としてカリキュラム作りが進められた。大学との相談の結果、それも可能とのことで、共愛学園高校生が大学にきてその講座を受け、単位ももらえるという制度を確立した。高校と大学が連携するプログラムをこれからも更に推進したいと考えている。

(進路の状況)

この数年、4年制大学への進学志向が強く、4年制大学進学者が43%、短大進学者15%、専門学校進学者28%となっている。また、4年制大学の進学者の内77%が県外へ、分野別では語学・国際関係に36%、法学・経済・社会学関係に20%進学している。

区分	人数	主な進路先
大学	145名	共愛学園前橋国際(26)、明治学院(14)、独協(7)、跡見学園女子(6) 東洋英和女学院(6)、聖学院(5)、桜美林(4)、埼玉工業(4)、創造学園(4)
短大	51名	新島学園(13)、育英(9)、青山学院女子(5)、高崎健康福祉(4)
専門学校	96名	東日本製菓技術(6)、中央情報経理(5)、前橋医療秘書(5)、
留学予定	8名	
就職	8名	
浪人	10名	
その他	20名	
計	338名	

(施設・設備の充実)

CALL教室の設備について、老朽化のため修理に必要な部品の入手が困難となり、生徒端末を含め機器及びシステムの総入れ替えを行った。これには、IT教育設備事業費補助金を申請し、補助金が交付された。

また専任教職員に1人1台パソコンを貸与し、各種連絡・届出や業務等の合理化と利便性を図った。

中 学

(入学の状況)

ポスター作成・小学校訪問・新聞広告等の広報活動を積極的に行ったことにより、2003年度よりも全体の応募者が約30%増、入学者が約40%増となった。

(入学概況 (入学定員90名))

	第1回入試		第2回	第3回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	47	35	20	10	112名
合格者	44	21	11	9	85名
入学者	42	21	11	8	82名

(進路の状況)

卒業生数74名中、共愛学園高校に内部進学した生徒は62名、他校に進学した生徒は12名であった。他校に進学した生徒の数はここ数年で一番多く、家計の都合によるものもあった。

年 度	卒業生数	内部進学 者数	外部進学者数					計
			県内 公立	県内 私立	県内 公立	県内 私立	海外 留学	
2003	78名	69名	4	2	0	1	2	9名
2004	74名	62名	6	1	2	3	0	12名

(施設・設備の充実)

高校と同様に専任教職員に1人1台パソコンを貸与し、各種連絡・届出や業務等の合理化と利便性を図った。

幼稚園

(園児募集)

園児募集を強化するため2003年度後半から2004年度前半にかけて、以下のように積極的な募集活動を展開した。具体的にはHPのリニューアル、月間プラザへの広告、学園報への特集記事、パンフレットの改定、桜マーク入りのクリアファイル作成と配布などが上げられる。

結果、入園児は次のとおりになった。

	入園児	在園児
3歳児	19名	19名
4歳児	4名	26名
5歳児	3名	29名
計	26名	74名

(用地の売却)

飛地の用地 962.12 m² (280.15 坪) を前橋市へ売却した。これは大学の部で説明したとおり、大学が前橋市から借りている用地と等価交換する形を採用した。